

第 2 回 江別市経済審議会 観光専門部会 議事録

日 時 平成 29 年 8 月 31 日(木) 14:00～16:20

場 所 江別市役所 第 2 別館 会議室 2 号

出席者 (敬称略・順不同)

平澤 亨輔 (札幌学院大学 経済学部 教授)

中野 亮二 (江別商工会議所 中小企業相談所 所長)

塩越 康晴 (江別消費者協会 会長)

和田 美和 (江別消費者協会 理事)

林 敏昭 (江別市商店街振興組合連合会 理事長)

岡村 恵子 (江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会 加工部会長)

事務局／江別市経済部商工労働課

事務局オブザーバー／株式会社 JTB 北海道 2 名

傍聴者／1 名

次 第

1. 開会

平澤部会長が開会を宣言し、第 2 回江別市経済審議会観光専門部会が開会した。

2. 江別市観光振興計画具体的取組案の検討について

事務局・根廻より、「本計画の考え方及び基本方針の位置づけ(流れ)」について説明があった。本計画は観光のトレンドやニーズの多様化を踏まえ、「ブランディング」「マーケティング」の視点からアプローチの方向性を定めることを確認した。

また、それに伴い、昨年まとめられた計画素案で提示されていた基本方針の順番の修正の提案があり、承認された。

修正された基本方針の流れは以下の通り。

- 基本方針 1. 観光資源を活かした魅力づくり
- 基本方針 2. 魅力を伝える観光プロモーション
- 基本方針 3. 市民や事業者が実感するまちづくり

引き続き、事務局・根廻より、第 1 回の専門部会で出された意見と計画素案をもとにした「取組案の考え方」及び「推進体制」についての説明、事務局オブザーバーの(株)JTB 北海道より、基本施策案と具体的取組案の説明があり、それぞれについて意見交換を行った。

<主な質問・意見>

「観光資源を活かした魅力づくり」について――

●「食の魅力体験プログラムの充実」においては、多忙な日常を抱える受入側の状況を把握して、対応できる時間や内容を精査してプログラムを組み立てることが大切だ。地理的な側面を考えると、最寄り駅からの二次交通のサポートがあると、より効果的な展開が可能になると思う。また、宿泊を伴う企画では、民泊の可能性は広がると思う。(岡村委員)

●資源の活用という点で、「えみくる」をもっと多目的に活用できないか。周辺を整備することで、スポーツ合宿の拠点などアピール力の高い展開も期待できる。また、市内にあるビューポイントと食を組み合わせるなど、江別の奥深さの魅力も広げたい。（塩越委員）

●江別駅前を、歴史のまち、レンガのまちの象徴として、歴史を見たり、体験したり、食事もできるような仕掛けなどで、有効活用したい。（和田委員）

●千歳川沿いのスーパー堤防事業構想があるが、歴史的建造物の保存と活用については国と道と江別市が地元住民も交えて協議していけないかと考えている。

また、集客イベントとして長年実績のあるやきもの市には、歴史的建造物を融合させた企画でその有効活用を図りたい。（林委員）

●江別の地酒「瑞穂のしずく」をモチーフにした、稲刈り体験と酒蔵見学のツアーがここ数年行われているが、とても発信力の高いイベントだと思う。今後の展開にも期待したい。（林委員）

●農業体験の企画では、体験、宿泊、食事など内容が多岐に渡り、受入側の負担が多くなることが懸念される。地域内の連携を図った取組が必要だ。二次交通の点では、観光タクシーの企画を検討してはどうか。また、観光ボランティアを起用すると企画に奥行きが出てくる。（中野委員）

●「道の駅」の進捗にも期待したい。かつて学生の企画イベントで「小麦マルシェ」というものがあったが、評価を受けたものの実現には至らなかった。江別産だけの展開というのは難しいところでもあるが、江別産の農産品やスイーツなどが一カ所にまとめた拠点があってもいいのではないか。

（平澤部会長）

●自転車を活用して江別の食を楽しみながら市内を周遊するプランは、点在する資源をつないだ企画として可能性を感じる。誘導サインやMAPがあると、より利便性を高めた取組になる。

（塩越委員）

「魅力を伝える観光プロモーション」「市民や事業者が実感する観光まちづくり」について――

●SNSは積極的に活用したい。例えばパフェなど素材ひとつあれば、それが画像になって拡散されるところに魅力を感じる。（岡村委員）

●観光用のパンフレットを、もっと市内で気軽に見て楽しめる機会があってもいい。（林委員）

●そこに行きたい、という資源の魅力があって、それが表現されることが大切だ。（和田委員）

●来るきっかけ、知るきっかけづくりになるものが重要であると捉える。（平澤部会長）

●女性の視点でいうと、おいしいものを食べに行くという意識から行動に移す傾向が強いので、食を軸にした企画がウリになるのではないか。（岡村委員）

○ブランド化の推進として取組案にある、江別の「食」プロジェクトの推進、江別の「農」プロジェクトの推進についてはどのように考えているか。（平澤部会長）

→「食」プロジェクトは、「テーマ志向」、「地元との交流志向」、「滞在志向」の旅行スタイルを意識し、他地域との差別化を図り、求心力のある江別の「食」の魅力を効果的に訴求する取組とし、「農」プロジェクトは、希少な小麦「ハルユタカ」、全国的に高い評価を得ている「江別小麦めん」などを軸に、躍動する都市型農業のプレゼンテーションの機会を創出する取組と考えている。

また、素材の持つ希少性(特長や位置づけ)、加工品(成果物)との関わり方などをストーリーづけるなど、素材のもつ価値を見いだして、それをどのように発信していくかをこのプロジェクトで議論するイメージもある。（事務局）

○プレゼンテーションの機会はあるのか。(林委員)

→ 首都圏を中心に、PR 用のスペースや販促イベントは数多くあるので、有効な活用方法を議論していくことになると思う。(事務局)

●ロゴの制作などは、他地域との差別化が図れることと江別産の認知に有効な手段となるので積極的に考えてみたい。(塩越委員) (岡村委員)

○取組主体にある「協働」の意味合いについて確認したい。(平澤部会長)

→推進体制として、「行政」「民間」「市民」が関わるものと計画素案で定義しており、「協働」とはそれぞれの関係者が役割を担って関わるという意味で記載している。取組案が出そろった段階で、主体の役割を再度協議いただきたい。(事務局)

●イメージづくりに大学の役割も重要だと考える。自然環境に恵まれたキャンパスなどを効果的に活かすことなど取組に含めたい。(塩越委員)

●教育、文化の視点から観光への関りとして4つの大学の存在は大きい。それを踏まえて取組に表記してほしい。(林委員)

●フィルムコミッションについては、四季や風景の魅力を働かせることができるのであればぜひアプローチしたい。(岡村委員)

●市民や観光客が利用するためのアクセス手段の効果的な方法があるといい。(塩越委員)

○観光像のコピーは、議論を踏まえると一部再考する余地があるのではないかと。(平澤部会長)

→表現内容等について再考の余地もあり、引き続き検討したい。(事務局)

●歴史のまちの視点として、縄文時代に「江別文化」が存在して道内に広まったことを、出土された土器等も含めて訴求ポイントのひとつとして確認しておきたい。(平澤部会長)

3. 閉会

次回は、第2回の議論を踏まえ、引き続き計画案の議論を深めることを確認した後、平澤部会長が部会閉会を宣言し、第2回江別市経済審議会観光専門部会を閉会した。

以上